



西日本区ホームページ・http://www.ys-west.or.jp/
 西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2014年2月号

「主題」

- 国際会長 : 全ての世界に出て行こう。
 アジア地域会長 : 未来を始めよう、いますぐに。
 西日本区理事 : 志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう。
 中部部長 : 長所を活かして生き生きと。
 プラザクラブ会長 : 5年後のプラザの為に今何を。
 強調月間・活動 : 【TOF・CS・FF ひとりひとりの思いやりの心が大きな実を結びます。献金にご協力ください。】

2月例会および今後の予定案内

【2月第1例会】

日時：2月13日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 第2会場：「みなと」・集合：19:30

【2月第2例会】

日時：2月27日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：次月例会の打ち合わせ
 出席義務者：役員(島崎・榎田・後藤)
 3月担当者(小澤・榎田)
 4月担当者(大島・後藤)

【今後の予定】

- 3月第1例会
 日時：3月13日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
- 第2回中部評議会
 日時：3月21日(金・祝)
 場所：名古屋YMCA会議室
- 3月第2例会
 日時：3月27日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室

1月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者						
		1	2	①	②	③	④	⑤⑥⑦
	大島 孝三郎	○		○	○			
	小澤 幸男							
書記	榎田 守隆	○			○			
会計	後藤 猛	○	○					
会長	島崎 正剛	○	○	○	○	○		
	鈴木 誉三	○	○	○	○	○		
直前会長	高田 廣	○	○		○			
連絡主事	万福寺 昭美	○	○					
ゲスト								
諸活動	①南山主催のリーダー激励会 1/11 ②会長連絡会 1/17 ③EMCセミナー 1/18 ④南京YMCAの歓迎会 1/25							
出席率(%)							87.5	
クラブファンド(円) ・当月/累計		6000					6000	
3月号寄稿者・後藤(400字詰原稿用紙4-5枚程度)								
4月号・万福寺/5月号・小澤/6月号・鈴木								

【2013-14年度クラブ役員】メネット連絡員・島崎正剛/副会長。プラザファンド・後藤猛/プリテン委員長。メール委員・榎田守隆
 EMC・BF・EF・JWF・高田廣/YMCAサービス。IBC・YEPP・小澤幸男/CS。TOF・鈴木誉三/広報事業・大島孝三郎/連絡主事・万福寺昭美
 TOF(Time of Fast)・断食のとき CS(Community Service)・地域奉仕 FF(Family Fast)・家庭での断食

1 月第 1 例会報告

日時:1 月 9 日(木)・18:30-20:00

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 卓話「名古屋 YMCA の未来」

講師:中村総主事

名古屋に着任して 10 ヶ月、早速立てた中期計画のうち自前の本館を南山に建設して幼稚園を拡大する、枳中に新しい拠点を設立する、の 2 件は地主の都合で頓挫したが、4 月より緑区神沢に保育園を開園することになった。グラウンドに芝生を張り、菜園を作り、実のなる木を植えて子どもが楽しく遊べる園にしたい。

名古屋 YMCA は韓国のソウル、中国の南京、台湾の台中 YMCA との交流がある。さらにフィリピンのアルバイともマングローブの植林などで支援したことがある。20 年前には日和田のキャンプ場でロスアンゼルスと交流しており、今年その時の参加者たちに先方へ出向いていただき交流の復活を果たし、来年には子どもたちを送る予定をしている。

今後、ユースリーダーの人数を増やして活動を広げれば、YMCA は活性化する。彼らを先の南京、ソウル、ロスなどの海外に送り出し、現地の青年と交流を深め、グローバルな視点で物事を考える若者を育てることが YMCA の使命と思っている。現在名古屋 YMCA の事業活動は、幼稚園、保育園、ウェルネス、キャンプなどですが、主導はスタッフたちが行っている。そのうちボランティアに関わることが沢山あるが、スタッフ 16 人ではマンパワー不足で、チャリランの東海、キャロルの名古屋クラブなどのように、ワイズの方々に興味のある事に加わっていただくことで YMCA は変わっていくだろう、と確信しておりますのでご支援をお願いいたします。などと、名古屋 YMCA の将来を熱く語る。



2. 連絡事項・島崎

(1) リーダー激励会(1/11)出席者確認

大島・島崎・鈴木

(2) EMC セミナー開催の確認

西日本区大会実行委員は午後 1 時に集合のこと。

(3) 東日本被災地への旅行は 4-5 月を予定する。プランは高田さんに一任する。

(4) 2 月第 1 例会

1 面参照のこと。

3. ワイズ通信報告・榎田

理事事務局、書記、事業主任、中部部長、事業主査な

どの各種メールは会長・メール委員に配信されますが、会長、クラブ事業委員宛は会長が該当委員へ連絡・指示して処理願います。

メール委員は第 1 例会の間(今月は 12 月 12-1 月 8 日)の全ての内容を日時ごとに書面で報告します。ホームページで閲覧できるものは W(西日本区)・C(中部)と表示しますので各自アクセス願います。アクセスできない方で興味のある件名があればメール委員宛にご連絡ください。

2 月第 2 例会報告

日時:1 月 23 日(木)・18:45-20:00

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・島崎

(1) 会長連絡会報告

a. 3 月 21 日(金・祝)中部評議会終了後開催予定の YY フォーラムは YMCA 引越し準備のため延期。

b. ワイズ世界大会に向け、ユース派遣のため各クラブに実行委員会を立ち上げて準備する。

c. クリスマスカードコンテストに 1600 枚の応募が幼稚園・保育園からあった。

d. 谷川さんから各クラブに、メネット事業主催の障がい者アート展のお手伝いを依頼される。

(2) YMCA 引越しのため、2 月末までに各クラブの備品は一時撤去すること。

(3) 4 月より連絡主事交代。

2. 東北旅行予定・高田

3 月に実施予定、2 月第 1 例会にプラン提示。

南山主催のリーダー激励会に参加して



1 月 11 日土曜日、八事のゴクラク亭に、リーダー 15 人、台北ベータクラブ 3 人、東海クラブ 3 人、プラザクラブ 3 人、南山クラブは OB 数人とメンバー 9 人の総勢 35, 6 人が集まった。会の冒頭南山クラブから、来年台湾でユースコンペクションが開催されるため支援の要請があり、ベータクラブからは参加してください、とのお誘いがありました。

お料理は前回と同様、野菜サラダに始まり、刺身の舟盛り、うどんと白菜の煮炊き、最後にご飯の雑炊。ビールの以外の飲み物は 2 時間飲み放題、ここゴクラク亭の味は大変おいしく、満足しました。

南山はリーダー出身者が居られるためか、リーダーへの温かい気持ちがあふれた良い企画だと感じました。
(大島 孝三郎)

EMCセミナー報告

日時:1月18日(土)・13:00-16:30

場所:名古屋 YMCA 3F 会議室

1. 西日本区大会の決算報告と寄付

昨年の6月22日、23日、名古屋能楽堂・名古屋キャッスルホテルで行われた、第16回西日本区大会が成功裡に終わったことへのお礼を若松実行委員長からあった。大会の決算報告と余剰金を寄付として、日本YMCA 同盟、名古屋・金沢・四日市各YMCA 代表者へ渡された。



2. ①中部部長挨拶

3月21日に開催される中部評議会で正式承認の見通しである「中部 EMC チーム」の実行委員会のメンバーを各クラブから1人選出させていただきました。ご了承願います。

②為国 EMC 事業主任挨拶

主任に就任時、西日本区の会員数は1604人ですが、任期中に1620人達成を目標とした。現在86クラブのうち20人以下のクラブは67%、10人以下は20%である。各クラブはこの実情を考えて会員増強を図っていただきたい。



3. 事例報告

①メンバー拡大・四日市クラブ

新人には用語解説などの勉強会を行い、早くクラブに馴染んでもらい、即脱会者の減少に努める。

②例会100%出席率継続・名古屋クラブ

1965-1986年までの事例では、メンバーの自覚と例会の改善、欠席の場合はメーキャップで補う。

③クラブの自己診断・東海クラブ

例会、クラブ運営など6項目のうち、人材育成についての成績が最も悪い。在籍年数でバラつきがある。

4. グループ討議

「事例や経験をどう生かすか」「中部200の目標をどう対処するか」をテーマにAからFまでの6グループに分かれて討議した結果の報告は次の通り。

- A. 南山はリーダー激励会を毎年開催しているが、ワイズのPRをYMCAの協力を得ながら行う。
- B. 若者たちが集まるイベントを企画・参加させて、ワイズの魅力を伝える。
- C. ワイズを知ってもらうために、YMCAのサポートが欲しい。
- D. 距離的に問題の会員がいる。新しいクラブを設立したいが部単位での協力が出来ないか。
- E. 過去にYMCAに関わった人への働きかけをする。新人にはオリエンテーションをしっかりと行う。
- F. 新人へのオリエンテーションは継続し、クラブでの役割を分担させる。



5. 中部部長閉会の挨拶

みなさんのグループ討議の発表を聞き、部長の主題を「円滑なコミュニケーションをもって奉仕活動に励み、事業の質的向上を会員増強につなげよう」としたが、おおよその方向は同じである。今後もEMC200を目標に各々クラブ活動を活発にしてもらいたい。

南京 YMCAの歓迎会



1月25日、「いもんちゅう母屋」に17時40分ごろ到着。沖縄・九州をイメージした料理をだす飯田街道ぞいの古い民家を改装した居酒屋。参加者は名古屋クラブ3名とプラザ3名と南山1名YMCAが総主事他4名と南京YMCAはMr Zhao Dnogshu (副総主事) Mr MaRui (インタ

ーン・スタッフ)の2名での歓迎懇親会。少々さびしいが、21日の招集では厳しかったか。中国語や英語が飛び交い、荒川さんや西村さんは英語の通訳。総主事は2年の台北経験で中国語と英語は堪能。2時間が賑やかに経過した。店舗の外にて全員で記念写真を撮って解散。(島崎 正剛)

私の英語勉強法

昨年8月から英語の勉強会を立ち上げ、月一のペースで6回続いている。メンバーは米国人でニューヨーク州他での弁護士資格を持つJolly先生を中心として、弁護士法人の代表を務める榊原さん、元岐阜県立高校の英語教師で校長も務められた石井さん、それに単に英語の勉強が好きだけで実務には全く経験のない私の4人で始まった。この会は形式にこだわる必要がなく全く自由な会なので、英語のレベルが極端に違う私でも、なんとか参加できている。だいたい火曜日の昼食を交え2時間ほどを分担し3人がトピックスを発表、先生のコメント、質疑応答といったやり方である。各人それぞれの特徴のあるテーマを持ち寄って行っている。榊原さんは新聞の犯罪記事の紹介、清教徒のアメリカ植民地への移住、メイフラワー号、独立戦争などだった。因みに、1620年に104人がメイフラワー号で渡ってメイフラワー誓約にサインした41人の中のひとりJohn HowlandはJolly先生のご先祖であると先生が発表された。石井さんは俳人で空海の研究者でもあるので、芭蕉と空海の共通点の説明、岐阜県に因む円空の紹介、ラフカディオ・ハーンを紹介などを取り上げられた。

私は英語力が格段に劣っているので、もっぱら英語の勉強の実践の紹介に留まっている。最近ではNHKのEテレの「ニュースで英会話」を視聴し、それが要約されインターネットでも同名のプログラムで配信されているので、それを材料に暗唱を目指して努力していること。15行ほどの文章であるが、知らない単語がいくつかあり、全体を理解するのに、はじめは5分も10分も掛ってしまう。しかし、単語を辞書で引くことはあまりしない。英文に対応して和文も付けられており、ボキャブラリーとセンテンスの解説まで載せてあるので、それを見れば理解することまではスムーズに運ぶ。しかし暗唱するには、何十回、いや百回以上も読み込んだり思い出しながら何回も書き取ってみたりして、覚えようががんばってみる。単語の綴り、冠詞、固有名詞、単数、複数の使い分けまでもすべて出来るよう目指している。最後には寝床の中や風呂の中でも試している。ようやくできるようになったと判断して、勉強会で発表を試みたところ、なんと、最初の単語からして全く出てこない。たとえスタートは出来ても、途中で立ち往生することしきりで、結局皆さんにお詫びして、原稿のところどころに目をやりながら、朗読に切り替えてしまう羽目となった。しかし、まだ懲りずに続ける積りである。ニュースの構文にも少しは慣れてきている。耳も少し慣れてきた。文章の組み立てを味わいながら楽しめるようになってきた。

先日、大学時代の体育会ソフトテニス部の同期会で13人が久しぶりに顔を合わせた。キャプテンだった岡井君は大手の石油会社に入社して社長、会長になり、役員の過半数が外人の会社でどのようにして役員会をリードしたのかと尋ねてみた。英語の必要な部署に配属された時、BERLIZで訓練を受けられる環境があり、彼は受講を希望した。1日のうち始業前に1lesson(40分)、終業後に3lesson(120分)で合計500 lessonを消化した、という。体育会で鍛えた精神力と努力によって大成した人物の一人である。

最近ではサッカーの本田圭佑選手がACミランに加入した時、インタビューの英語対応は素晴らしいものだった。グローバル化した現代に、国際的に活躍すべき若い人はどんどん英語力を身につけてもらいたい。私は少しでも老化防止になればと頑張るつもりである。

(大島 孝三郎)

聖書の言葉

【はじめに神は天と地を創造された。地は形なく、むなしく、闇が淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてにおおっていた。神は「光あれ」と言われた。すると光があった。神はその光を見て、良しとされた。神はその光と闇とを分けられた。神は光を昼と名付け、闇を夜と名付けられた。タとなり、また朝となった。第1日である。(創世記1.1-5)】

【そして、2日目は空を、3日目は大地に陸と海を、4日目は太陽と月と星を、5日目は魚と鳥を、6日目は獣と家畜と神に似せた人間を作り、7日目はそのすべての創造の行為を終えて休まれた。】

【アメリカは伝統的に聖書を重視するプロテスタント信者が多いが、なかでも聖書の一字一句正しいものとして扱う聖書無誤説をとる福音主義の保守派がその中心となり、反進化論運動が盛んであることはよく知られている。米シンクタンクのピュー研究所が2013年4月に18歳以上の1983人を対象に行った調査では、「人類は始めから現在まで、今の姿で存在した」と回答した人は33%、「人類は時間の経過とともに進化した」とした人は60%、他は「分からない」だった。進化論を信じた60%の人の中でも、3分の1以上の方が「超越者(神)が進化を導いた」と答えた人がおり、全く進化論を信じない人を合わせると半数以上を占める。進化論を信じない人たちは、ダーウィンの自然淘汰説をルーツに、現代では分子遺伝学、分岐分類学、古生物学など包括した進化生物学に「進化途中に位置する中間の化石が見つからない動物がいる」(ミッシング・リング)などを根拠に反論している。それに対し進化論者は『陸棲生物が水棲生活や飛翔生活に適応する大きな変化は、地理的条件で隔離された小さな集団内で起こり、新しい適応的遺伝形質も短期的に集団全体に広がる。そのため、変化した系統と元になった系統の接点となる種の化石は個体数・生息した地域・時期が限定させているので発見されにくい』(Wikipedia)と全く相手にしていない。